

人々の生活を支え続けてきた 豊かな出水

JR金倉寺駅から西へ進むと、道の右側に永井清水があります。住宅街の一角に石垣で整えられた堀があり、北に向かって流れています。この出水は百数十坪あるといわれ、下流一帯の多くの田に水を送っています。近くには稲木北遺跡があり、古代の郡庁を思わせる大規模な建物跡なども見つかりました。

江戸時代は、丸亀京極藩の藩主が休憩するために永榎亭と名づけられた「お茶屋」と呼ばれる休憩所があり、ところてんの名所であったともいわれています。



今でも生活用水の一部として使われています。

文化から天保にかけては丸亀城下に新たな湊みなとが整えられたことで、土佐の藩主も丸亀から参勤交代の船を出すようになりました。そこで、伊予街道を東進し鳥坂峠を越えた大名行列は永井清水に立ち寄り、藩主山内公は永榎亭で一休みし、藩士の人たちは周辺に4ヶ所ある湧き水で体を癒やしたといわれています。

榎えのきの大木があったことから「えのきの出水」、「ゆきの出水」とも呼ばれ、多くの人々に親しまれてきました。



- 下吉田町
- JR金蔵寺駅から徒歩約10分